

東京都写真美術館外部評価委員会

平成 22 年度事業 評価結果報告

平成 23 年 6 月 30 日

(目 次)

1	座長あいさつ	1
2	総 評	2
3	評点一覧	4
4	評価結果一覧	5

座長あいさつ

この度、外部評価委員会として平成 22 年度の東京都写真美術館の運営に対する評価結果を、福原義春館長に提出しました。

東京都写真美術館は、「存在感のある美術館」を中・長期的なミッションとしておりますので、そのミッションの具体的な事業運営項目に沿って、評価を行いました。

平成 22 年度の評価では、次の諸点に特に注意を向けました。作品収集、作品管理、調査研究において、館の収集基本方針や収集指針が明確に立てられており、方針や指針に基づく収集や作品管理が適切、的確に行われていること。展覧会では、全国に及ぶ調査研究に裏づけされた企画や、質が高く、きめの細かい展覧会企画を提供し、来館者の満足度を昨年にも増して高めていること。また、本年 3 月の大震災の影響を受けつつも、集客に向けた努力と工夫によって、目標数を大きく上回る来館者を迎えたことなどです。

また、当館を支援していただく企業・団体等の支援会員について、写真美術館への理解・協力を深め、良好な関係を継続して築いていること、さらに、この経済状況下において、過去最高の支援会員数を獲得するとともに、支援会員に対するケアも適切であり、他館の見本となるような活動ぶりに高い評価をいたしました。

一方、各種事業に應じて、業務に見合う人材面の確保、地域等との繋がりを強める連携の推進、ホスピタリティの充実面において、一層取り組みを強化していただきたい課題も残されています。さらに、今後予定されている大規模改修工事にあたっては、建物のハード面での使いにくさが少しでも改善されるよう期待しているところであります。

当委員会では、この評価が東京都写真美術館の今後の事業運営の改善、発展の一助となることを目的としていることから、各委員から寄せられた提言、課題等に着実、迅速に取り組みされるよう期待するものです。

平成 23 年 6 月 30 日

東京都写真美術館外部評価委員会

座長 樺山 紘一

【総評】

平成 22 年度の美術館運営について、まず、「優れた写真・映像作品の計画的・効果的な収集」であるが、写真美術館では基本方針及び収集指針が明確に立てられており、これら方針・指針に基づく収集が適切に行われている。特に新規重点作家の作品を複数購入された点をはじめとして、質の高い作品を効果的、継続的に収集している点について高く評価する。

次に「的確な作品管理」であるが、写真美術館は目標水準を高く設定し、的確に作品管理が行われている。とりわけ、温湿度のきめ細かいチェックと、徹底した作品の管理は、他の多くの美術館よりも優れていると言える。しかしながら、それを支える人材の配置は十分とはいえず、充実を望みたい。

また、「調査・研究」面においては、大学や民間との共同研究や連携により、作品の保存研究、展示・保存環境の整備など、積極的に写真文化の継承に尽力しているものと評価する。

「展覧会」では、全国に及び調査・研究に裏づけされた企画や他の美術館との共同企画など、質が高く、きめの細かい展覧会企画を提供しており、来館者の満足度も大変高いものとなっている。また、来館者数については、本年3月の「大震災」の影響を受け、来館者総数では昨年度をやや下回る結果となったものの年間目標数は大きく上回り、ほぼ目標を達成したといえる。写真美術館の集客に向けた努力と工夫に高い評価をした。

「映画の誘致と上映」については、写真と映像と両方を視野におさめながら、資料性と娯楽性の両方に配慮したラインナップを組むなど、その工夫や努力は評価できるが、映画選定の方向性や戦略性について、引き続き、館としてのスタンスを固めていく努力を期待する。

「普及教育活動」では、展覧会に関連した講演会のほか、スクールプログラムも目的にあわせて多様に実施されている。ワークショップについても、プリント実技を中心に多彩なプログラムを実施し、写真への基本的興味を深めるなど定着しつつあるが、もう少し親しみ易い括りで整理し直すことも必要である。

「図書資料」については、美術館の専門図書室として、写真に関する文献、情報収集、それらの整理と提供など、非常に高い水準を維持し、コンパクトで

かつ利用者に提供しやすいしくみが配慮されているなど十分に評価できる。

「広報宣伝」においては、写真美術館はその広報手段を確立しており、館独自で開拓し、実現に向けて取り組む姿勢は評価できる。また、新たに若者をターゲットにしたニアイズの発行など、館オリジナルのものの発掘やチャレンジ精神に満ちた広報活動は、積極的であり高く評価できる。

「来館者サービス」面では、友の会の更新方法や特典の改善、またアンケートの要望への対応など昨年からの改善の努力が見られ、その取組は評価できる。

「企業・団体等の参加促進」については、厳しい経済状況下において、写真美術館が独自に進める支援会員制度を定着させ、支援会員数、会費総額ともにこれまでの最高を記録し、成果を上げていることを高く評価する。また、会員に対するケアも適切である。

「インフラ」面では、設備の維持、管理は適切に行われているが、館の老朽化に伴い、開館 20 周年に向けて大規模改修が予定されているので、エレベーターの増設を始め、ロビー、エントランス周辺の改善など、建物のハード面での改善を期待したい。また、来館者への安全確保や収蔵資料の保護の観点からも、東京都に対して十分な対応をお願いするものである。